

諫早市教育委員会会議録

平成28年第11回（10月定例）

平成28年第11回（10月定例）教育委員会

1 日 時 平成28年10月26日（水） 14時00分～15時00分

2 場 所 諫早市役所 7階 7-1会議室

3 出席者 委員長 緒方 正親
委 員 秀島 はるみ
委 員 大石 竜基
委 員 宮本 峻光
教育長 平野 博

4 会議に出席した事務職員

教育次長	井上 良二
教育総務課長	田島 正孝
学校教育課長	福元 英典
生涯学習課長	村川 美詠
文化振興課長	江頭 洋子

5 議題

教育長の報告

議案第17号 平成28年度諫早市教育委員会表彰受賞者の決定について

会議録署名人の指名

秀島委員と宮本委員を会議録署名人に指名

議事の非公開

議案第17号は、個人情報が含まれているため非公開

会議録の承認

- 平成28年第10回（9月定例）教育委員会の会議録について
質問・意見なし
原案どおり可決

教育長等の報告の要旨

1 教育長の報告

○ねんりんピックについて

10月15日にねんりんピック長崎2016の総合開会式がトランスコスモスタジアムで開催された。諫早市立の小中学校は演技出演や各県等選手団の先導、手作りの応援用横断幕の作成、メッセージカードの作成など地元小中学校を代表して真摯に取り組んでいた。

中学生の「のんのこ皿踊り」、小学生の「がんばらんば体操」など一生懸命の演技に、来場者から称賛の声も多く聞かれたところである。

○九州都市教育長協議会について

20、21日に福岡県久留米市で開催された第30回九州都市教育長協議会総会及び研究大会に出席した。

総会議事の後、文部科学省初等中等教育企画課の森田課長から「教育における今後の展望と課題」と題して講話があり、学習指導要領の改訂、今後の教職員の在り方等の検討、新教育委員会制度とこれからの教育委員会の役割について説明があった。現在、審議中のものの方向性については、今後の国の動きに注目する必要がある、国、県とともに連携して対応すべきものと考え

えている。新教育委員会制度については、いじめ問題における教育委員会の在り方についての確認であった。

研究部会については、第1部会の教育行財政部会に参加した。鹿児島県日置市の「夢をもち あしたをひらく 心豊かな人づくり」と題した内容は、特に郷土の教育的な伝統や風土を生かした「風格ある教育」をめざしており、郷土について学ぶ「ひおき学」を市内全校で学年ごとに年間35時間授業を行うとし、指導書、学習テキストなども充実していた。

2市目の鹿児島県鹿屋市では、「未来を担う心豊かでたくましい人づくり」と題し鹿屋市の近未来計画から英語力向上プロジェクト、平和のメッセージ全国発信事業、鹿屋寺子屋構想について説明があった。鹿屋市は諫早市と同規模の都市でもあり先進都市として参考にしたい。翌日は文教施設視察ということで福岡県立九州歴史資料館及び九州国立博物館を視察した。

○諫早市幼稚園小中学校音楽会について

諫早市幼稚園小中学校音楽会が25日の中学校音楽会からはじまった。中学校の午前の部を鑑賞したが、子どもたちが一生懸命合唱及び演奏する姿は感動を覚えたところである。この大会は合併後12回目だが、旧市において平成62年から始まっており、今年で30回目を迎えた。今後も子どもたちの音楽発表の場として発展させたいと考えている。

○まちづくり懇談会について

まちづくり懇談会が20日の高来地域を皮切りに始まった。現在、本野地区までの3箇所で開催されている。本野地区では、スクールバスの運行について弾力的な運用ができないかとの質問があった。

懇談会は11月4日の小長井地域を最後に市内7箇所で開催する。

《教育長の報告に対する質問・意見》

[委員]

九州都市教育長協議会の資料の中に「教員の経験年数について、初任者の教員の割合が高くミドルリーダークラスの教員の割合が低い」とあるが、このことは前々からわかっていること。それがなぜ問題なのかという指摘はあったのか。

[教育長]

子どもの数が減っている中、教員の定数確保について文部科学省も力を入れており、中堅職員が少ない中、教職員の育成が重要であるという説明の資料であった。また、「チーム学校」の説明の中では、教職員の多忙化の解消に向け、国としても外部人材の活用について積極的に取り組むという話もあった。多くの外部人材を入れることで仕事の内容を分散し、多忙化を解消したいということがチーム学校の考え方のようである。

[委員]

教職員の業務が多岐にわたり、サポートする専門家も少ないことが多忙化につながっている。いじめの問題にしても、専門家と同じような対応が教職員に求められ、そのことが原因となり休職する人が出てはいませんか。

[教育長]

文部科学省が進めているいじめ問題では、ソーシャルワーカーやカウンセラーを充実してチーム学校として外部人材を入れながら取り組もうというのが今の流れであり、その方向性は間違っていないと思っている。

2 教育次長の報告 なし

《教育総務課長の報告》

○平成28年度諫早市教育委員会表彰について

《学校教育課長の報告》

○平成28年度全国学力・学習状況調査の結果について

[委員]

平均点を比べたときの差が、有意の差があるかないかの検定はしているのか。

[学校教育課長]

今回のテストの成績とアンケート結果のクロス集計は行われているが、テストの点数の有意差検定は行われていない。

[委員]

全国平均や県平均と比べるのであれば、有意差の検定を行うべきではないか。

[学校教育課長]

学力調査は、数値化することが目的ではなく、この結果を今後の指導に生かすために行われている。ただし、問題ごとの有意差は調べており、文部科学省からは、学校ごとの課題についての細かな資料は出ている。

[委員]

あくまでも表に出るのは点数であり、例えば見た目に50と60に10の差があっても、有意差の検定をしてなかったら話にならない。なぜ科学的な検証をしないのか理解できない。

[委員長]

文部科学省のほうにデータの取扱方法や調査方法の詳細について問い合わせさせていただきたい。

《生涯学習課長の報告》 なし

《文化振興課長の報告》

○国指定天然記念物『諫早市城山暖地性樹叢』の現状変更について

[委員]

予定では崖側を削って道路を拡幅するのか、それとも川側を広げるのか。

[文化振興課長]

崖側を削って道路を拡幅する。

[教育長]

樹木も道路に張り出している。以前には崖崩れもあり、この道路拡幅は以前からの懸案事項であった。

[委員長]

写真で見ると、城山暖地性樹叢区域の中に体育館や道路や神社、商店があるが、これらの施設が存在することは可能なのか。

[文化振興課長]

可能ではあるが、これらの施設はすでに公園として活用しているので、今後は指定区域から外すよう事務を進めていく。

議 事 の 概 要

《非公開議事》

- 1 議案第17号 平成28年度諫早市教育委員会表彰受賞者の決定について
教育総務課長説明
削除
原案どおり可決

その他

教育総務課長

定例教育委員会の日程について説明

15時00分閉会